

# 2022年3月期 決算補足説明資料

2022年5月16日

© 2022 TREホールディングス株 All Rights Reserved.

## 目次

• 決算の概況【連結】	... P3
• TREホールディングス(株)	... P4
✓ 設立の経緯	
✓ 会社概要	
✓ 資源サーキュラー事業スキーム (①、②)	
✓ 事業内容	
• 2022年3月期 決算	... P9
✓ 市場環境	
✓ セグメント別売上高及び営業利益	
✓ 連結キャッシュ・フローの動向	
✓ 設備投資・減価償却費	
✓ 2023年3月期 業績見通し	
• 中期経営計画	... P16
✓ 中期経営計画の進捗状況	
✓ 実績及び計画推移 (セグメント別)	
✓ 統合シナジーの進捗状況	
✓ 経営統合1年目終了にあたって	
• TOPIX	... P23
✓ ㈱門前クリーンパークの工事進捗報告	
✓ 「プラスチック資源循環促進法 (2022年4月施行) 」を踏まえての事業スキーム構築検討を加速	
✓ TREのサーキュラーエコノミーへの取り組み	
✓ 再エネ発電所の近況と2022年度の修繕計画	
✓ ガラスリサイクルへの取り組み	

## 決算の概況【連結】

廃棄物処理・再資源化事業において搬出品の付加価値化・製品化が奏功したことや、資源リサイクル事業において、分選別強化による有価物回収量の増加と資源相場の高値水準が後押ししたことで、全体の業績に大きく貢献し、営業利益76億円を達成しました。

(単位：百万円)

	2022年3月期		
	通期実績	業績予想	進捗率
売上高	68,234	67,400	101.2%
営業利益	7,659	7,430	103.1%
経常利益	7,547	7,220	104.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,742	4,420	107.3%

株主配当		2022年3月期
一株当たり配当金	普通配当	20.0円
	記念配当	5.0円
	合計	25.0円

## 配当性向30%以上達成

※ 2021年10月～2022年3月までの実績に対する期末配当金25円に、(株)タケエイの第2四半期における中間配当15円を含めて計算すると、配当性向は実質36.1%となります。

2022年3月期	
1株当たり当期純利益	110.79円

- ※ 2021年10月1日付で共同持株会社として設立されました当社は、会計上、(株)タケエイが取得企業、リバーホールディングス(株)が被取得企業となります。従いまして、当期連結累計期間の連結業績には、(株)タケエイの2021年4月1日～2022年3月31日の連結業績と、リバーホールディングス(株)の2021年10月1日～2022年3月31日の連結業績を連結したものととなります。
- ※ 当社設立後最初の決算となるため、前年同期及び前年度との対比は行っておりません。
- ※ 業績予想は、2022年2月14日に上方修正した数値であります。

## TREホールディングス(株) 設立経緯

マクロ環境における課題

地球	地球温暖化 資源枯渇 廃プラスチック問題	日本	人口減少 市場縮小 インフラ老朽化	業界	非効率経営 低い信頼性 後継者問題
----	----------------------------	----	-------------------------	----	-------------------------

求められる社会ニーズ

高度循環型社会の実現

脱炭素社会の実現

そのために

地球環境に対する“想い”が一致する両社が結束し、共同で資本を投じることで効率性が加速あらゆる経済資源を活かし合いシナジーを発揮することを目指し

2021年10月1日 (株)タケエイとリバーホールディングス(株)は、共同持株会社を設立しました。



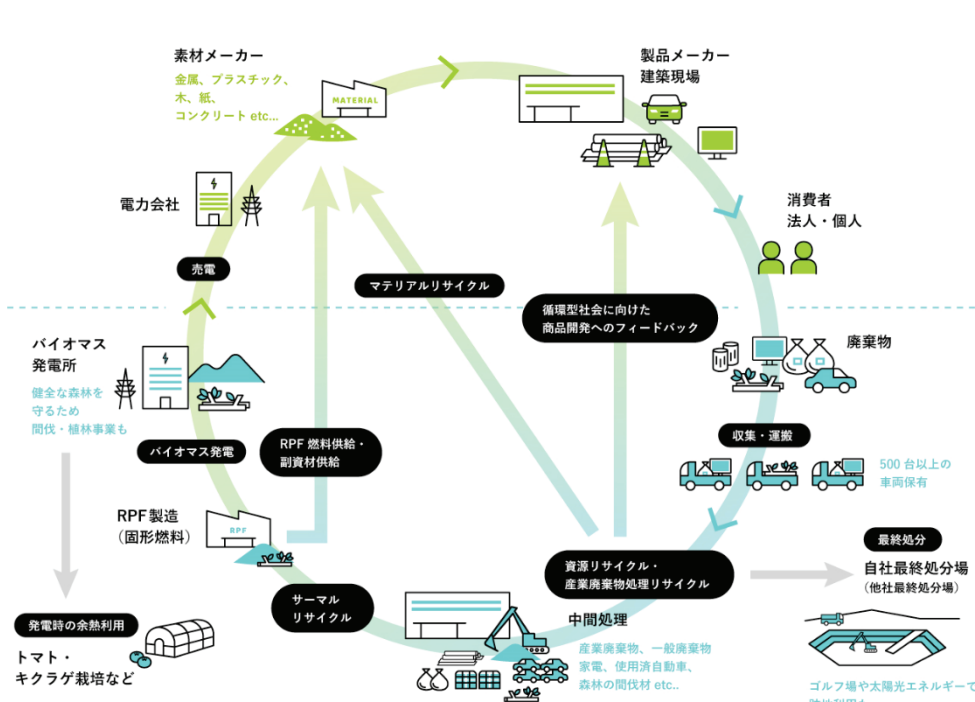
## TREホールディングス(株)

Try  
↓  
Technology  
Recycling  
Renewable Energy  
↓  
Earth Ecology

挑戦する  
新たな技術開発  
リサイクル事業の深化  
エネルギー事業の推進  
地球環境の保全

企業理念	地球の環境保全に貢献する。
設立	2021年10月1日
本社	東京都千代田区
代表取締役	代表取締役会長 松岡直人 / 代表取締役社長 阿部光男
資本金	100億円
従業員	連結：2,103名
グループ事業内容	廃棄物処理・再資源化事業、資源リサイクル事業、再生可能エネルギー事業、環境エンジニアリング事業、環境コンサルティング事業
子会社等	子会社：39社 持分法適用関連会社：6社
グループ拠点数	60拠点 首都圏及び東北、北陸、甲信、関西他 / 海外(タイ)1拠点
グループ主要顧客	大手建設会社、ハウスメーカー、大手製鉄会社、商社等

2022年3月末時点



廃棄物処理・再資源化事業

資源リサイクル事業

廃棄物排出量が多く、再資源化製品、再生エネルギーに対する需要が旺盛な関東圏を核に事業展開しております。

最大級の処理能力、多くの拠点数、車両を駆使し、サーキュラーエコノミーの社会ニーズに的確な対応を図っております。

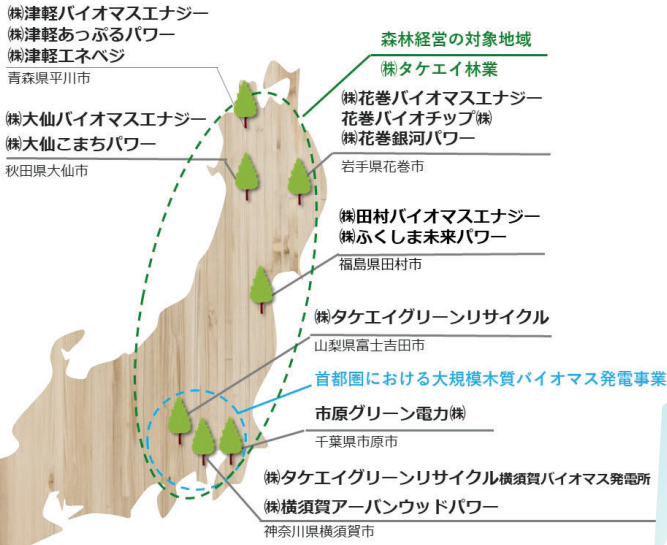
グループ取扱量 年間約 **200** 万t

中間処理・リサイクル施設 **60** カ所

車両保有台数 約 **500** 台

大型破砕機台数 関東圏 **6** 基

※大型破砕機とは、本体馬力が1,000馬力以上の破砕機を指します。



再生可能エネルギー事業

RPF：古紙及び廃プラスチック類を主原料とした固形燃料。高カロリーで、化石燃料と比較してCO2排出量が少ない。

東日本を中心に、東北の4ヶ所で、主に森林資源の内、未利用材の間伐材、伐採材を、関東圏2ヶ所では、解体材、一部RPFなどを燃料とする木質バイオマス発電所を運営しております。

また、森林経営（計画、段階伐採、植林）への取り組みを強化し、資源サーキュラーが可能な再生可能エネルギー事業の拡充を推進しております。

年間扱量 木質バイオマス 約60万t RPF 約5万t

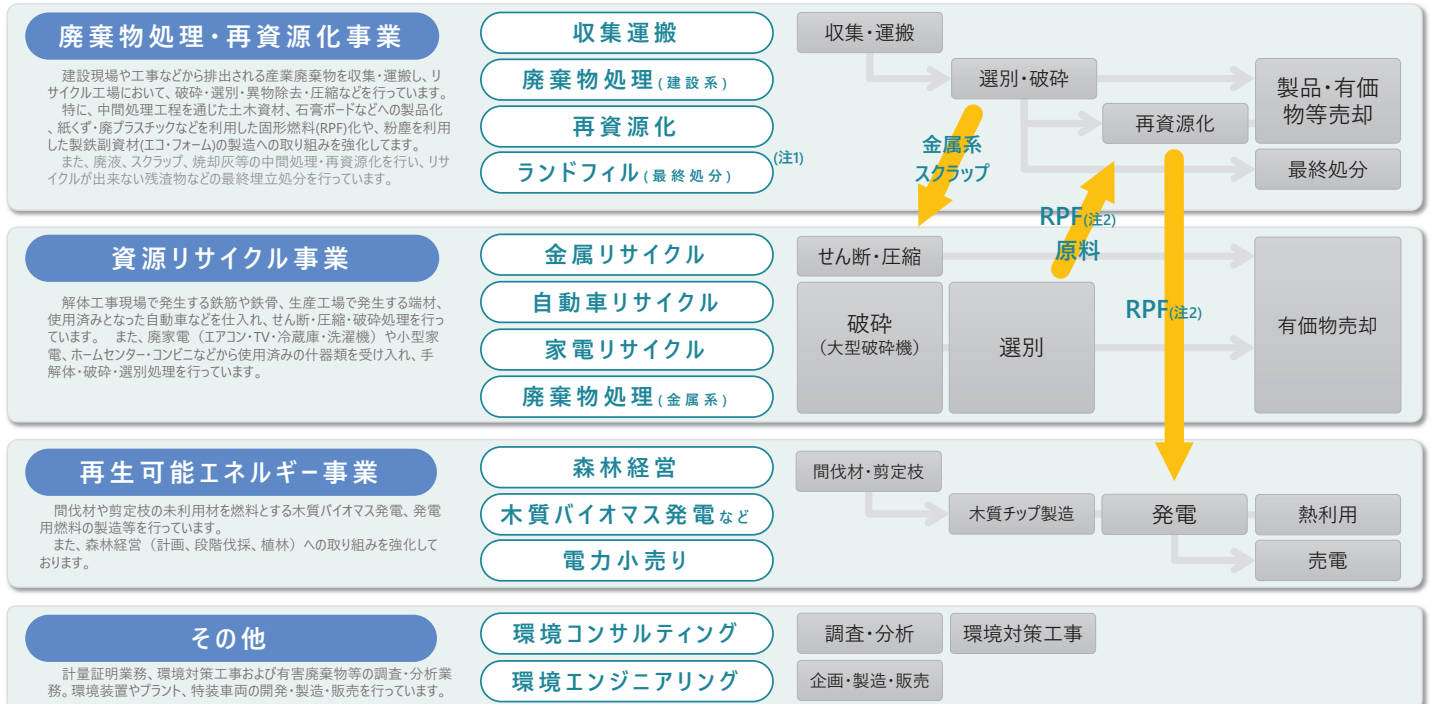
年間発電量 約661,320 MWh



出典：林野庁資料より

環境エンジニアリング事業、環境コンサルティング事業

その他の事業セグメントとして、環境機器の企画・製造・販売を行う環境エンジニアリング事業、計量証明事業、環境対策工事及び有害廃棄物等の調査・分析業務を行う環境コンサルティング事業を推進しております。



注1：最終処分場の跡地を有効利用し、パークゴルフ場や太陽光発電事業の運営を行っています。

注2：RPFとは、古紙及び廃プラスチック類を主原料とした固形燃料。高カロリーで、化石燃料と比較してCO2排出量が少ない。

# 2022年3月期 決算

市場環境

セグメント別売上高及び営業利益

連結キャッシュ・フローの動向

設備投資・減価償却費

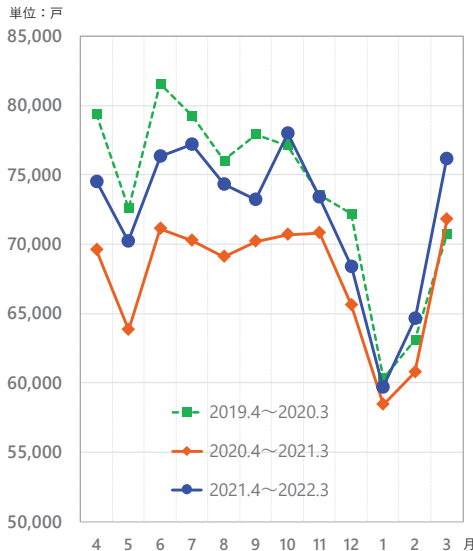
2023年3月期 業績見通し

## 2022年3月期 決算



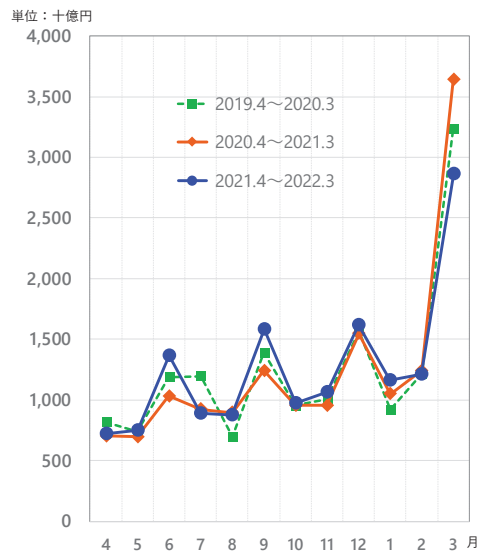
### 市場環境

#### ■ 新設住宅着工戸数



コロナ禍による住環境への関心の高まりなどにより、各月とも対前年同月比を上回る。継続した**回復基調**。

#### ■ 建設工事受注高 (大手50社)

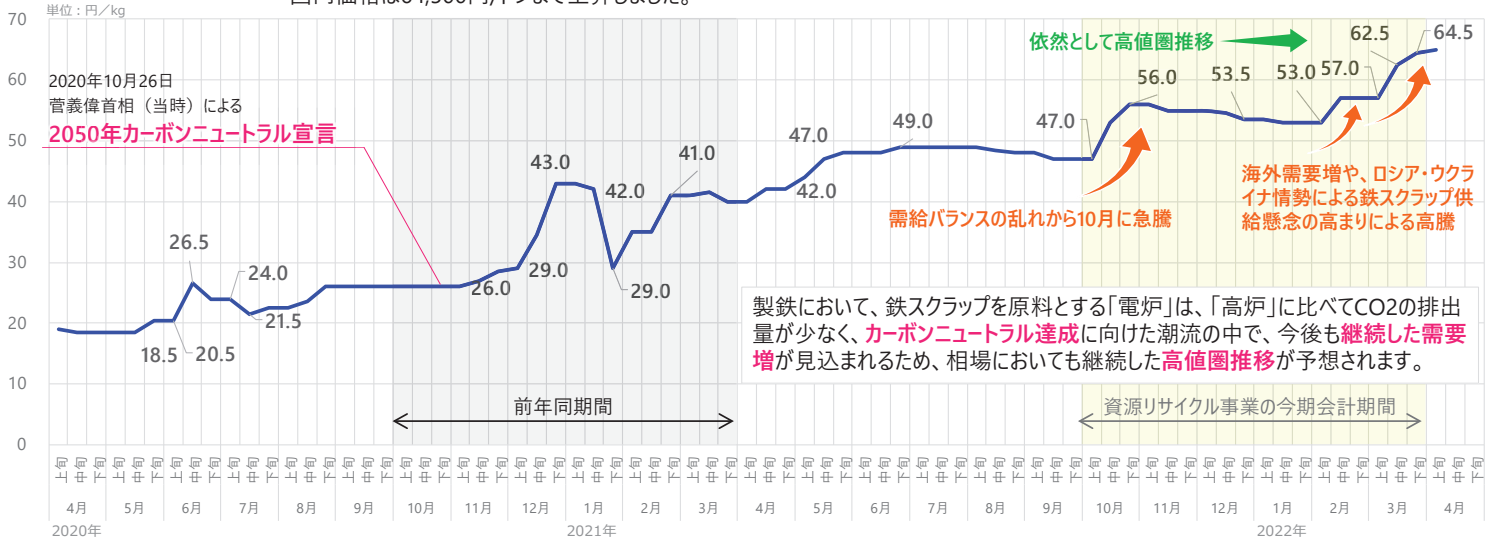


堅調な推移を見せる中、2月以降前年同月比を下回り、3月においては同21.2%減。資材価格高騰などによる影響が懸念される。

市場環境

■ 鉄スクラップ市況

2021年10月初めに47,000円/トン(東京製鐵(株)宇都宮工場特級価格)であった価格は、鉄スクラップ発生量の低迷と、鉄鋼メーカーの需要増が重なり、月末には56,000円/トンまで急騰しました。その後、国内価格と輸出価格の乖離を調整する形で緩やかな下落基調となりますが、年が明け2月に入り、海外需要増による輸出価格の高騰に引っ張られる形で国内価格も上昇、更にロシア・ウクライナ情勢により、両国からの鉄鋼関連商品の供給懸念が高まり、鉄スクラップ相場においても欧州を中心に価格が高騰し、3月末時点の国内価格は64,500円/トンまで上昇しました。



製鉄において、鉄スクラップを原料とする「電炉」は、「高炉」に比べてCO2の排出量が少なく、**カーボンニュートラル達成**に向けた潮流の中で、今後も**継続した需要増**が見込まれるため、相場においても**継続した高値圏推移**が予想されます。

セグメント別売上高及び営業利益

単位: 百万円

	2022年3月期 通期実績		
	売上高	営業利益	営業利益率
<b>連結</b>	68,234	7,659	11.2%
廃棄物処理・再資源化事業 (注1)	25,146	5,113	20.3%
資源リサイクル事業 (注2)(注3)	24,068	2,787	11.6%
再生可能エネルギー事業 (注4)	12,617	-305	-
その他 (注1)(注5)	7,102	441	6.2%
<b>調整額 (注6)</b>	-700	-376	-

廃棄物処理・再資源化事業

- 有価物の**分別強化**や搬出品の**付加価値化、製品化**などの**収益改善策**が奏功。
- 石膏ボードリサイクル事業では、新築・解体案件の増加等による**搬入量の増加**。

資源リサイクル事業

- 鉄スクラップ相場の急騰局面での**スプレッド(利幅)上昇**と、高値圏推移の継続による廃棄物から加工・選別される金属類の**売却益**が増加。

再生可能エネルギー事業

- 安定稼働体制は定着傾向にあるものの、臨時補修工事や3月に発生した地震の影響により、一部で稼働率の低下が響く。
- 電力小売5社は、LNG等の資源価格の高位推移や、冬期の仕入価格上昇の影響を受けましたが、非FIT電源の売電等により、減益の緩和に努めております。

注1: 「収益認識に関する会計基準」等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。  
 注2: 資源リサイクル事業は、経営統合における会計上の被取得企業であるリバーホールディングス連結業績の2021年10月1日～2022年3月31日の半期分のみの実績となります。  
 注3: 資源リサイクル事業には、経営統合に関連するのれん影響額90百万円(2021年10月1日～2022年3月31日の半期分)が反映されております。  
 注4: 再生可能エネルギー事業には、市原グリーン電力(株)等に関するのれん償却額376百万円が反映されております。  
 注5: その他は、「環境コンサルティング事業」、「環境エンジニアリング事業」を表します。  
 注6: セグメント利益又は損失の調整額△376百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△383百万円が含まれております。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

連結キャッシュ・フローの動向

単位：百万円

	2022年3月
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,017
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 2,149
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 3,700
現金及び現金同等物の増減額	5,167
現金及び現金同等物の期首残高	10,282
株式移転に伴う現金及び現金同等物の増加額	8,564
現金及び現金同等物の期末残高	24,014

■ 主な内訳

単位：百万円

営業活動によるキャッシュ・フロー		2022年3月
税金等調整前当期純利益		7,662
減価償却費		5,016
のれん償却額		476
法人税等の支払額		△ 2,657
投資活動によるキャッシュ・フロー		2022年3月
国庫補助金による収入		1,459
固定資産の取得による支出		△ 4,395
財務活動によるキャッシュ・フロー		2022年3月
短期借入金の増減額 (△は減少)		△ 3,866
社債の発行による収入		6,963
社債の償還による支出		△ 596
長期借入れによる収入		38
長期借入金の返済による支出		△ 5,208
配当金の支払額		△ 839

設備投資・減価償却費

単位：百万円

	2022年3月期 通期実績(注1)	2023年3月期 通期予想
設備投資	4,395	12,547
減価償却費	5,016	6,189

注1：経営統合における会計上の被取得企業であるリバーホールディングスにおいては、連結業績の2021年10月1日～2022年3月31日の半期分のみの実績となります。

TREグループ新規投資の基本方針

- ・ サークラーエコノミー実現に寄与するグループ各社の高度な選別技術や再資源化技術を実装する設備改善、新たな拠点確保のための設備投資を積極的に進めます。特に廃プラスチックリサイクル、廃太陽光パネルリサイクルに向けたリサイクル事業スキーム構築を推進致します。
- ・ 脱炭素社会により直接的に貢献するため、非化石燃料による再生可能エネルギー発電の増量のための設備投資、CCUS(注2)も視野に入れたリサイクルスキーム構築のための研究開発を推進します。
- ・ 事業活動に伴うCO2排出量の見える化に向けたDXを推進し、お客様の脱炭素社会への貢献活動と連携した提案力を強化致します。

■ 主な設備投資 (実績)

		通期実績	計画
㈱タケエイ	設備・車両更新、処分場拡大など	11.7億円	21億円
㈱門前クリーンパーク	処分場造成工事など	3.9億円	14億円
リバー(株)	電子廃棄物専用ライン新設	2.5億円	2.5億円
イコールゼロ(株)	設備・車両更新	1.8億円	3億円
㈱タケエイグリーンリサイクル	設備・車両更新	1.1億円	3億円
花巻バイオチップ(株)	中間処理設備設置など	1.9億円	3億円

■ 主な設備投資 (計画)

		計画
㈱門前クリーンパーク	処分場造成工事など	36.8億円
㈱タケエイ	設備・車両更新、処分場拡大など	35.0億円
㈱信州タケエイ	設備・車両更新	4.9億円
リバー(株)	選別ライン強化など	4.1億円
市原グリーン電力(株)	機械部品交換等	3.1億円
富士車輛(株)	設備・ソフトウェア更新	3.0億円

注2：CCUSとは、CO2を分離・回収して、地中深くに圧入・貯留する技術「二酸化炭素回収・貯留(CCS)」と、回収したCO2を、燃料製造や化学品へ再利用する技術「二酸化炭素回収・有効利用(CCU)」の総称。

## 2023年3月期 業績見通し

(単位：百万円)

	2022年3月期 (注1) (通期実績)	2023年3月期				
		(通期予想)	売上比	前年同期比	上期 (予想)	下期 (予想)
売上高	68,234	94,200	—	+38.1%	45,500	48,700
営業利益	7,659	9,300	9.9%	+21.4%	3,800	5,500
経常利益	7,547	9,300	9.9%	+23.2%	3,800	5,500
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,742	5,900	6.3%	+24.4%	2,400	3,500

注1：(株)タケエイの当期連結累計期間(2021年4月1日～2022年3月31日)の連結業績と、リバーホールディングス(株)の当第2四半期及び当第3四半期連結会計期間(2021年10月1日～2022年3月31日)の連結業績を連結したものととなります。

## 廃棄物処理・再資源化事業

- 有価物の分選別強化などによる収益改善策の継続効果を見込む。
- 廃棄物の付加価値化、製品化に向けた設備投資によるコスト削減効果を見込む。

## 資源リサイクル事業

- 半導体不足による自動車生産の低迷、巣ごもりによる家電買換え需要の前倒しに伴う廃家電の発生減を見込む。
- リバー(株)藤沢事業所における建屋建替に伴う稼働制限による減収減益を見込む。
- 売上単価は55,000円/トンで計画。ロシア・ウクライナ情勢による上昇は一時的と見込む。

## 再生可能エネルギー事業

- 市原GPW、花巻BE、大仙BE、田村BEにおいて、法定点検による稼働日数の減少を見込む。
- タケエイグリーンリサイクルでは、バイオマス比率の引き上げにより、売電単価の上昇を見込む。

## 中期経営計画

中期経営計画の進捗状況 (2年目・3年目数値目標の見直し)

財務目標の進捗

実績及び計画推移 (セグメント別)

統合シナジーの進捗状況

経営統合1年目終了にあたって



中期経営計画の進捗状況（2年目・3年目数値目標の見直し）

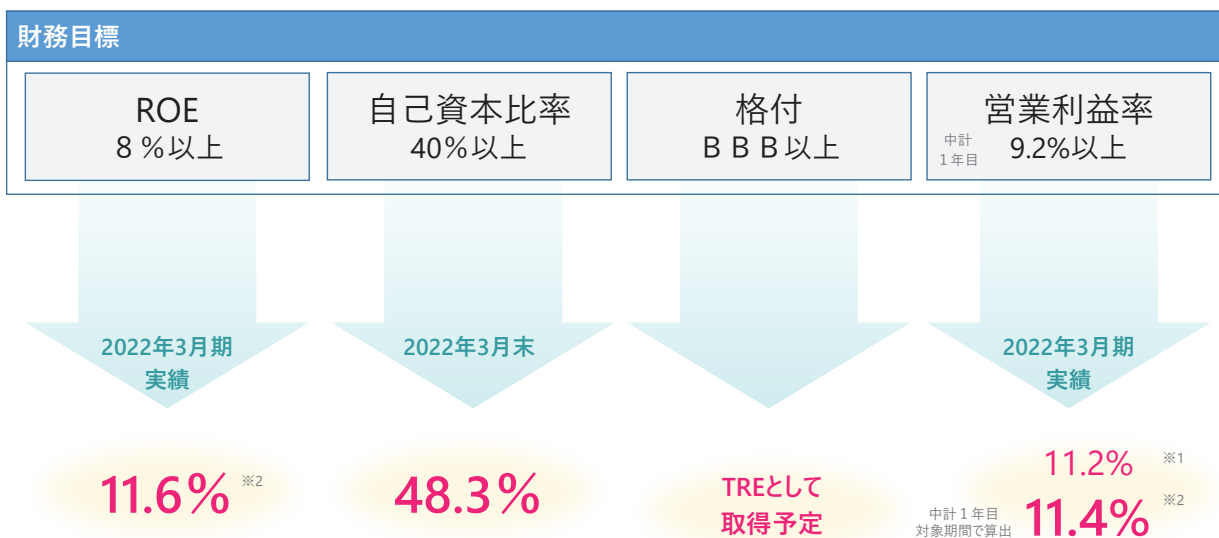
（単位：百万円）

	実績					計画					
	2021年3月期 通期実績 (注1)	中計1年目（2022年3月期）				中計2年目（2023年3月期）			中計3年目（2024年3月期）		
		通期実績 (注1)(注2)	前期比	中計1年目(注4)	達成率	中計2年目	見直し後2年目 業績予想(注2)	新旧 増減比	中計3年目	見直し後3年目 (注2)	新旧 増減比
売上高	73,470	90,584	+23.3%	89,700	101.0%	90,000	94,200	+4.7%	92,000	98,000	+6.5%
営業利益	6,727	10,326	+53.5%	10,100	102.2%	8,400	9,300	+10.7%	9,000	10,150	+12.8%
営業利益率	9.2%	11.4%	+24.5%	11.3%	101.24%	9.3%	9.9%	+5.8%	9.8%	10.4%	+5.9%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	4,084	7,248	+77.5%	6,930	104.6%	5,460	5,900	+8.1%	5,890	6,440	+9.3%
1株当たり 当期純利益(注3)	-	141.1円	-	131.7円	107.1%	106.3円	114.8円	+8.0%	114.6円	125.3円	+9.3%

2021年10月に発表した中期計画を大幅に上回る業績をあげる中、2022年2月に中計1年目見込を上方修正しましたが、2年目、3年目については、統合1年目であることや、コロナ禍の不確定要素等に鑑みて、見直しを見合わせておりました。今回、高騰する資源相場など、改めて足元の状況等に鑑みて、2年目、3年目についても数値目標の見直しを実施しました。

注1：経年比較のため、経営統合2社(株)タケイ、リバーHD(株)の集計期間を4月～翌年3月通期で合算しております。  
注2：営業利益には、経営統合に関わるのれん(2022年3月期90百万円/年、2023年3月期以降180百万円/年)影響額を見込んでおります。  
注3：1株当たり当期純利益は、中期経営計画の実質的な進捗状況の把握を容易とするため、2022年3月期末発行済株式数から同期末自己株式数を差し引いた51,362,030株で算出しております。  
注4：2022年2月14日に開示した通期連結業績予想を元に、中計1年目についても上方修正。

財務目標の進捗



※1：2022年3月期の会計上の対象期間で算出。（タケイの2021年4月1日～2022年3月31日、リバーHDの2021年10月1日～2022年3月31日）  
※2：中計1年目の対象期間で算出。（タケイ、リバーHD共、2021年4月1日～2022年3月31日）

実績及び計画推移（セグメント別）

単位：百万円

		2021年3月期 (実績) (注1)		2022年3月期 (実績) (注1)(注3)		2023年3月期 (業績予想)		2024年3月期 中計3年目	
		2020年4月～ 2021年3月	2021年4月～ 2022年3月	前期比	2022年4月～ 2023年3月	前期比	2023年4月～ 2024年3月	前期比	
連結	売上高	73,470	90,584	+23.3%	94,200	+4.0%	98,000	+4.0%	
	営業利益	6,727	10,326	+53.5%	9,300	-9.9%	10,150	+9.1%	
	営業利益率	9.2%	11.4%	+24.5%	9.9%	-13.4%	10.4%	+4.9%	
廃棄物処理・再資源化事業	売上高	24,738	25,146	+1.6%	25,829	+2.7%	27,028	+4.6%	
	営業利益	3,468	5,113	+47.4%	4,786	-6.4%	4,836	+1.0%	
	営業利益率	14.0%	20.3%	+45.0%	18.5%	-8.9%	17.9%	-3.4%	
資源リサイクル事業 (注1)(注2)	売上高	31,408	46,418	+47.8%	47,100	+1.5%	49,500	+5.1%	
	営業利益	2,660	5,454	+105.0%	4,361	-20.0%	4,791	+9.9%	
	営業利益率	8.5%	11.7%	+38.7%	9.3%	-21.2%	9.7%	+4.5%	
再生可能エネルギー事業	売上高	11,457	12,617	+10.1%	14,088	+11.7%	15,151	+7.5%	
	営業利益	325	-305	-	388	-	865	+122.9%	
	営業利益率	2.8%	-	-	2.8%	-	5.7%	+107.3%	
その他	売上高	6,828	7,102	+4.0%	7,893	+11.1%	8,841	+12.0%	
	営業利益	349	441	+26.4%	420	-4.8%	753	+79.3%	
	営業利益率	5.1%	6.2%	+21.5%	5.3%	-14.3%	8.5%	+60.1%	
調整	売上高	-962	-700		-710		-2,520		
	営業利益	-76	-376		-655		-1,095		

注1：中期経営計画の実質的な進捗状況把握及び期間比較を容易とするため、資源リサイクル事業には、中計目標数値と同じ基準で、リバーHD株の4月～翌年3月の実績としています。

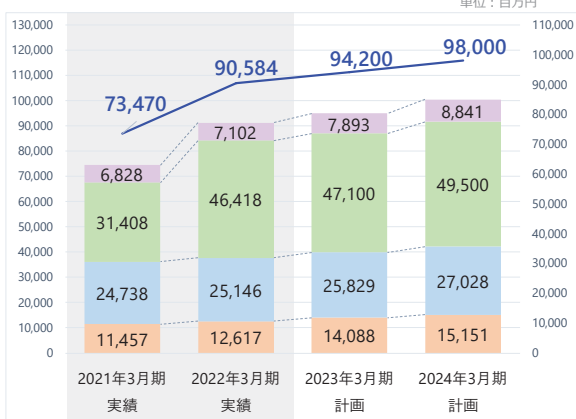
注2：資源リサイクル事業には、経営統合に関連するのれん影響額（2022年3月期90百万円/年、2023年3月期以降180百万円/年）が含まれております。

注3：再生可能エネルギー事業には、市原グリーン電力㈱等に関するのれん影響額376百万円が含まれております。

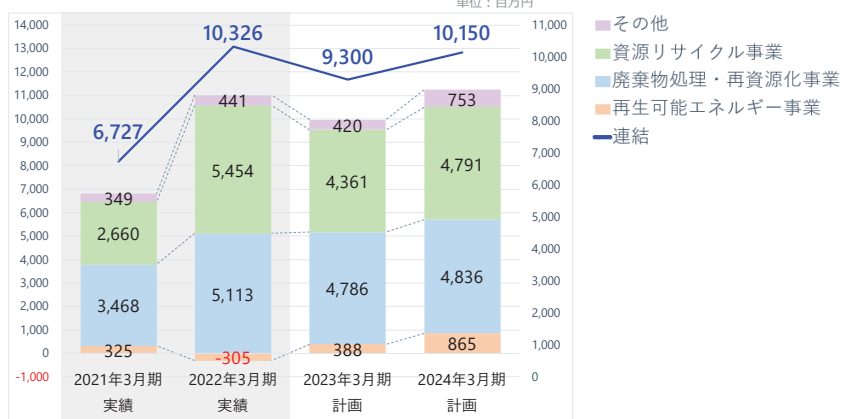
実績及び計画推移（セグメント別）

※ 2021年3月期と2022年3月期は「実績」、2023年3月期と2024年3月期は「計画」

■ 売上高



■ 営業利益



廃棄物処理・再資源化事業

- 23年3月期：福島、長野における災害廃棄物処理支援事業の終了による利益減を見込む。(株)タケエイにおけるリサイクル工場でのRPF等製造体制強化は継続。
- 24年3月期：(株)門前クリーンパーク開業による業績寄与を見込む。

資源リサイクル事業

- 売上単価は55,000円/トンで計画。
- 23年3月期：自動車生産の低迷、廃家電の発生減、リバー(株)藤沢事業所における稼働制限、設備投資による減価償却費増を見込む。
- 24年3月期：リバー(株)藤沢事業所の通常稼働。

再生可能エネルギー事業

- 23年3月期：バイオマス発電6カ所における安定稼働体制確立を見込む。
- (株)タケエイグリーンリサイクルにおけるバイオマス比率変更を見込む。
- 24年3月期：電力小売販売先、発電所保守メンテナンス体制の見直しによる収益性改善を見込む。

統合シナジーの進捗状況

計画数値の見直しを行ったものの、基本戦略は継続して推進。

リサイクル事業の拡充

- リサイクルニーズが高まる太陽光パネル、自動車ガラスのリサイクル事業化を推進。
- 設備改善の推進、高次選別拠点の構想の具体化。
- 未利用資源の製品化、付加価値化（RPF、製鉄副資材等）。

エネルギー事業の推進

- 地元共生型の森林経営事業への取り組み強化。余熱の農業利用推進。
- 自社電源も含めた再生可能電力供給量の拡大。
- 首都圏における廃棄物サーマル利用施設の計画推進。

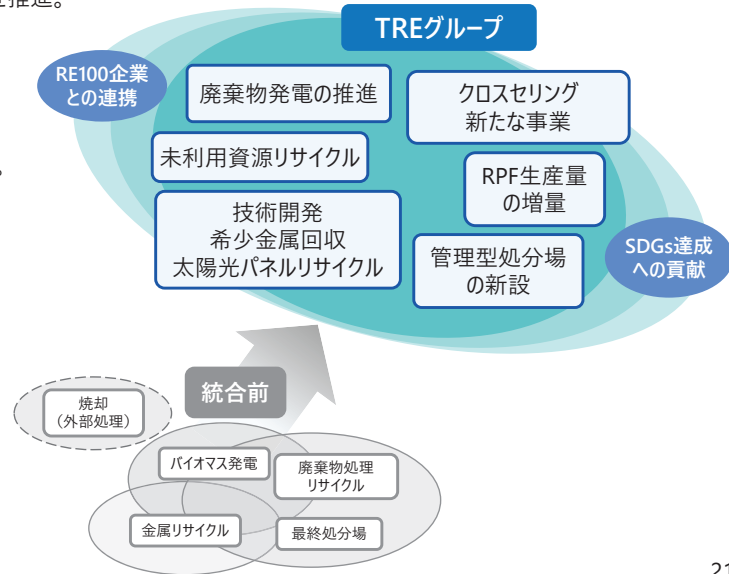
技術開発（ビジネスモデル構築）

- 廃プラスチックリサイクルに向けた事業スキーム構築。
- 技術開発を土台として新たなリサイクル事業計画の検討。

サステナビリティ経営

- 事業活動に伴うCO2排出量の見える化、リスク対応シナリオ分析。
- 役職員一体となってSDGs推進への貢献を図る。

< 中期経営計画による成長イメージ >



経営統合1年目終了にあたって

統合報告書の開示に向けたプロジェクトチーム組成

TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言に沿った**統合報告書の開示**に向け、TREグループによる組織横断的なプロジェクトチームを組成しました。ESG経営とSDGs目標達成への貢献に向けた「マテリアリティ」の特定や、中長期的なリスクと機会の特定、及びサステナビリティ重点取組み事項の特定を実施。加えて各種データ公開に向けたデータ整備も同時進行中です。

タケエイSDGs推進財団の取組みと「TRE SDGs推進財団」への名称変更

一般財団法人 タケエイSDGs推進財団を通じて、2022年3月期において、港区が主催する「港区クリーンアップキャンペーン」に参加したほか、日本赤十字社を通じた「ウクライナ人道危機救援金」への寄付などを実施しました。

こうした活動をTREグループとして発展、承継するため同財団は「**TRE SDGs推進財団**」と名称変更してまいります。引き続き、SDGs目標達成への貢献を推進し、TREグループ社員それぞれが環境・人権意識の啓発に繋がるよう活動していきます。

TREグループで災害支援

2019年10月の台風19号によって発生した災害廃棄物の処理支援事業に、イコールゼロ(株)を中心に携わりました。今期も引き続き、東日本大震災福島復興プロジェクトに貢献すると共に、各地で蓄積した経験を活かしてまいります。

また、(一社)日本災害対応システムズ（<http://jdts.or.jp/>）については、タケエイからTRE-HDとしての加盟に切替え、TREグループとしての災害支援活動に積極的に取り組んでいきます。

# TOPIX

株門前クリーンパークの工事進捗報告

「プラスチック資源循環促進法（2022年4月施行）」を踏まえての事業スキーム構築検討を加速

TREのサーキュラーエコノミーへの取り組み

再エネ発電所の近況と2022年度の修繕計画

ガラスリサイクルへの取り組み

# TOPIX



株門前クリーンパークの工事進捗報告

2022年4月撮影



	第1期	第2期	第3期	合計
埋立面積	5.16ha	8.46ha	5.75ha	17.26ha
埋立容量	83.6万m <sup>3</sup>	173.1万m <sup>3</sup>	86.4万m <sup>3</sup>	343.1万m <sup>3</sup>
埋立期間	11年7ヶ月	24年6ヶ月	11年9ヵ月	47年10ヶ月

(注) 第1期～第3期の埋立面積の合計は、重複部分があるため一致しません

### ○今後の工程

工事期間は概ね4年間で予定しており、現在、浸出水処理施設の築造や埋立地の造成工事が主な内容となります。

主な工程	2018			2019			2020			2021			2022				
	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12
準備工																	
伐採工事																	
濁水対策工事																	
造成工事																	
防災調整池工事																	
集排水管工事																	
造水工事																	
浸出水処理施設工事																	
後片付け等																	

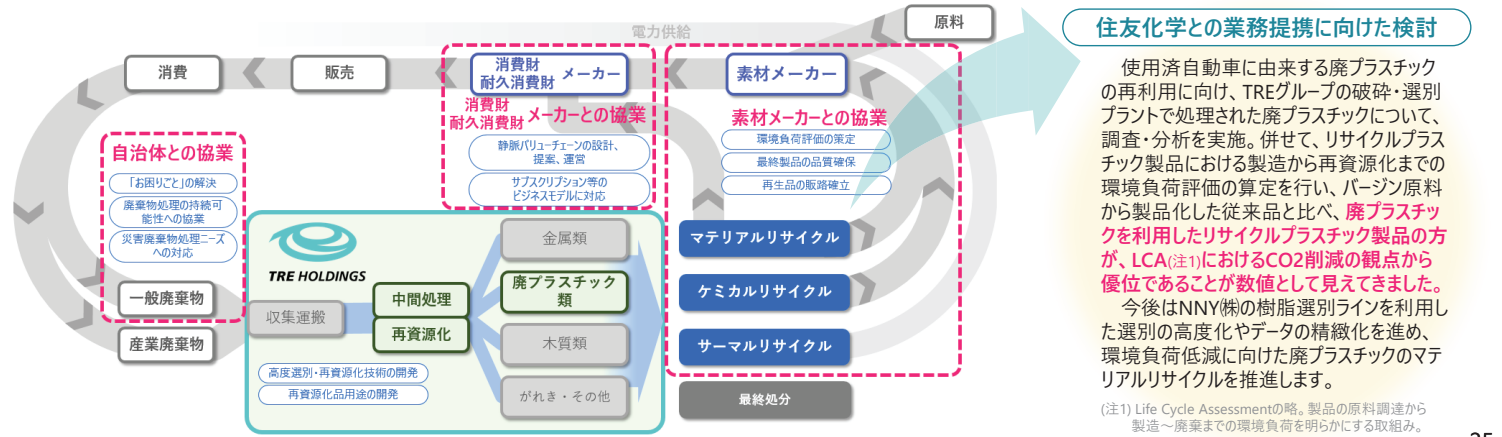
注：工程は予定であり、工事の進捗により変更されます。

引き続き環境などに配慮し、安全に工事を実施してまいります。  
第1期工事は2022年11月に完了予定です。

「プラスチック資源循環促進法（2022年4月施行）」を踏まえての事業スキーム構築検討を加速

TREグループでは、大型設備やあらゆる選別装置を駆使し、廃プラスチックリサイクルの幅広いサイクルニーズに対応しております。特に、更なる高度な選別機能向上（ソーティングセンター構想の具体化）、高効率発電に向けた技術開発をすすめ、産学官との協業を視野にいれた新たな協業スキーム構築を推進しております。

- 選別技術／工程開発の加速**
  - 豊富な実証機会と動脈企業エンジニアリング部門とTREグループ（株富士車輛等）との協同や産学連携による技術開発によって、選別工程機能の強化を目指した設備構想の具体化を図っております。
- 出口戦略の最適化**
  - 動脈企業との協業を視野に、新たなリサイクル技術の実装に向け、需要家のニーズにマッチした製品提供を検討。（複数商社、メーカーとNDAを締結の上、協議中）
- プラスチック資源循環の事業スキーム構築へ**
  - 一般廃棄物の受入も視野に入れたりリサイクル拠点設置や品質に応じた最適リサイクル手法の適用を目指しております。（大学、地自治体、大手企業等との意見交換を推進中）



© 2022 TREホールディングス株式会社 All Rights Reserved.

TREのサーキュラーエコノミーへの取り組み

**リバー(株)東松山事業所 電子廃棄物専用ライン新設**

2022年4月1日稼働スタート

世界的な電子廃棄物の増加に伴い電子廃棄物専用(破砕機)ラインの新設

中田屋(株)熊谷工場で実施しているATMなどの機密情報を含む電子機器類の手解体ラインと連携し、解体後の基板を破砕・異物除去するなど、付加価値向上に向けた取り組みを強化します。電子スクラップの破砕を行うことで、鉄・アルミを選別した後の「金銀銅滓」を国内大手製錬メーカーへ出荷します。

想定処理数量 700t/月 ※電子スクラップ・基板類

屋根に太陽光パネルを設置し、施設稼働に必要な使用電力の26%を再生可能エネルギーで賄います。

**NNY(株)那須事業所 樹脂選別ライン新設**

据え付け完了

プラスチックリサイクルの推進に向け樹脂選別を強化するため専用選別ラインを新設。

現在、NNY(株)那須事業所において、ミックスメタル(注1)選別後に残るガス(残渣物)の中から、樹脂などのマテリアルを年間 600t 選別して資源化につなげています。今回、新たに樹脂選別ラインを導入することで、マテリアルリサイクル量を年間 1,800t まで増やし、より一層の資源化に貢献いたします。さらにRPF(注2)などの代替燃料として活用できる燃料向けのガスも年間 420t 選別出来ると見込んでいます。

2022年7月稼働予定

有価物(樹脂) 600t → 3倍 → 有価物(樹脂) 1,800t

廃プラスチックの代替燃料化 +420t

© 2022 TREホールディングス株式会社 All Rights Reserved.

## 再エネ発電所の近況と2022年度の修繕計画

## 近況（2021年度末の状況）

- 市原グリーン電力(株) : 第1四半期に設備補修、追加工事の影響を受けたものの、安定稼働を継続してしております。  
 (株)タケエイグリーンリサイクル : バイオマス比率の変更に目途が付き、安定稼働が定着しつつあります。  
 (株)田村バイオマスエナジー : 発電設備の自社運営・保守に取り組み、安定稼働体制を確立しました。  
 電力小売5社 : 電力需給が逼迫しやすい厳冬期に市場価格高騰の影響を受ける事業環境にあり、仕入価額が一時的に増加しましたが、市原グリーン電力(株)において固形燃料RPF（非FIT）を使って発電している電力を市場へ売電すること等により、減益の緩和に努めております。

## 2022年度の定期修繕計画

該当会社	主な修繕内容 (定期修繕・設備強化等)	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期
(株)津軽バイオマスエナジー	パーツ交換工事等	○		○	
(株)花巻バイオマスエナジー	ボイラー	○		◎	
(株)大仙バイオマスエナジー	ボイラー、タービン	◎		○	
(株)タケエイグリーンリサイクル	パーツ交換工事等		○		○
市原グリーン電力(株)	ボイラー、タービン	◎		○	
(株)田村バイオマスエナジー	ボイラー			◎	○

◎：法定点検・定期修繕（ボイラーは2年に一度、タービンは4年に一度） ○：定期点検・定期修繕

© 2022 TREホールディングス株式会社 All Rights Reserved.

27

## ガラスリサイクルへの取組み

## TREグループに「JWガラスリサイクル(株)」が加わりました

板・瓶ガラスを回収し、選別・異物除去・破碎を行い、再生ガラス原料（「カレット」）として、板・瓶ガラスメーカーやグラスウールメーカーに販売する再資源化事業を展開しています。

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
売上高	1,174	1,236	1,194
営業利益	149	210	178

(単位：百万円)

※ JWガラスリサイクルの業績については2023年3月期業績予想に含まれておりません。

商号	JWガラスリサイクル株式会社
設立	2004年10月5日
本社	東京都江東区新木場
代表取締役	行森 秀和
資本金	30百万円
主な事業内容	ガラス屑の集荷・再資源化処理・販売

## 4工場を展開

新木場工場 東京都

南幌工場 北海道

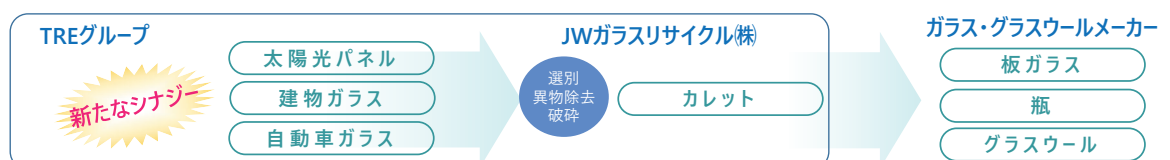
館林工場 群馬県

大井川工場 静岡県

## TREにおけるガラスリサイクルの意義

TREグループは「地球の環境保全に貢献する。」を企業理念とし、事業領域の拡大と多角化の推進によって、高度循環型社会ならびに脱炭素社会への貢献を図る「総合環境企業」を目指しております。

今後、処理ニーズの拡大が見込まれる**太陽光パネル**や、**建物ガラス**、**使用済自動車**などの廃ガラスを再資源化する取り組みに挑戦してまいります。 廃ガラスを再資源化することで、天然資源の消費を抑制し、製造工程におけるCO2排出量の削減、加えて最終処分場に埋立て処理される残渣物の削減に貢献していきます。



© 2022 TREホールディングス株式会社 All Rights Reserved.

28

- 本資料に記載の内容は、過去及び現在の事実に関するものを除き、当社が現時点で入手可能な情報及び仮説に基づいて判断されたものであり、当該仮説や判断に含まれる不確定要素や、将来の経済環境の変化等により影響を受ける可能性があり、結果として当社および当社グループの将来の業績と異なる可能性があります。
- なお、本資料における将来情報に関する記述は上記のとおり本資料の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。
- また、本資料に記載されている当社ないし当グループ以外の企業等にかかわる情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

